

落ちるリンゴを待つな



(…省略…)

君はリンゴの実がなる木を見たことがあるか。

リンゴ園の老人が言うには、

一番リンゴらしい時に木から

取ってやるのが、大切なことだ。

落ちてからではリンゴでは

なくなるそうだ。

落ちるリンゴを待っていてはダメだ。

木に登ってリンゴを取りに行こう。

そうして一番美味しいリンゴを

皆に食べてもらうおうじやないか。

一、二度、木から落ちてても

なんてことはない。

リンゴの花のあの白い美しさも

果汁あふれる美味しさも

厳しい冬があったからできたのだ。

風に向かえ。苦節に耐えろ。

常に何かに挑む姿勢が、

今、この国では大切なことだ。

(伊集院静「贈る言葉」より抜粋)

「落ちるリンゴを待つな」は、あの忘れることのできない「3. 11」(東日本大震災・2011)後に、伊集院静(注1)が若者に贈ったことばの一節で入学式でも紹介した。日本全体がああ沈鬱な気分にも包まれていた時に、多くの人の気持ちを奮い立たせたことばとして心に強く残っている。

古来、「リンゴ」は多くの象徴的な意味合いを持っている。「禁断の果実」「知恵の樹の実」等々、また、ビートルズのレコードレーベルや米国の世界的な企業の名称としても知られている。

ところで、みなさんにとってのリンゴは何だろうか。甲南生に落ちるリンゴを待っているような人はいないと確信しているが、今、自ら木に登ってリンゴを取りに行っていると自信をもって言えるだろうか。一番美味しいリンゴを独り占めせず、他の人にも食べてもらおうとしているだろうか。厳しい冬の寒風に立ち向かい、失敗を怖れず常に何かに挑んでいるだろうか。そして、日々、「地球規模でものを考え行動できる」ように自らを鍛えているだろうか。

一方、落ちるリンゴを見て、かのニュートン(注2)は万有引力の法則を発見したという逸話で知られている。彼は、ニュートン力学の確立、微積分法の発見等々で「自然科学界の英雄」とも称されている。当時、彼の天才的な才能を高く評価する声に対して、ベルナル(注3)のことばを引用して次のように語ったという。

If I have seen further it is by standing on the shoulders of giants.

(私がかたな遠くを見渡せたのだとしたら、それはひとえに巨人の肩の上に乗っていたからです)

彼は「私は天才ではない。ただ、人間が長い時間をかけて築き上げてくれた英知を学ぶ幸運を得たので、新たな発見ができたにすぎない」と言いたかったのではないと思う。

みなさんも人類が長い時間をかけて築き上げてきた、美味しい英知を思う存分学ぶことができる。それぞれに自分にとって美味しいリンゴを見つけ、もぎ取ることも大切だが、自力で、もぎ取るプロセスが本当は一番楽しみに違いない。さあ、ただちに今からもぎ取りに出発しよう。

Let's begin!

(注1)伊集院静1950～作家、作詞家。「機関車先生」、「愚か者」(近藤真彦に提供 日本レコード大賞受賞作)等々作品多数。

(注2)Sir Isaac Newton1643～1727イングランドの物理学者、数学者、自然哲学者。「天才的な自然科学者」とも称される。

(注3)Bernard de Chartres 12世紀フランスのネオプラトニズム哲学者。「我々は古代人の英知の肩の上に立つ小人にすぎない」